

廿日市市景況調査報告

(2020年4～6月)

～業況DIは、下げ止まりの兆しも、厳しい状況続く。先行きも慎重な見方は変わらず～

1. 全体の概要

業種別景況概要	全国(6月)		廿日市 4～6 月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲ 61.1	▲ 56.2	▲ 72.7	▲ 59.1	▲ 85.7	▲ 57.1	33.3	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 60.0	▲ 85.7	▲ 57.1
採算	▲ 59.6	▲ 55.1	▲ 72.7	▲ 40.9	▲ 71.4	▲ 28.6	0.0	0.0	▲ 100.0	▲ 60.0	▲ 85.7	▲ 57.1
仕入価格	▲ 16.8	▲ 18.8	9.1	4.5	14.3	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3
雇用人員	▲ 21.1	▲ 0.4	▲ 4.5	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	20.0	▲ 42.9	▲ 28.6
業況	▲ 62.8	▲ 57.7	▲ 63.6	▲ 31.8	▲ 42.9	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 100.0	▲ 40.0	▲ 85.7	▲ 57.1

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください (対象 67社 回答 22社)

全産業合計の業況DIは▲62.8(前月比+3.0ポイント)。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の解除を受け、営業を再開した小売業・飲食業などで客足が戻りつつあるほか、中断していた公共工事に再開の動きが出始めるなど、一部で下げ止まりの兆しがみられる。一方で、依然として遠出を避ける消費者が多く、宿泊業をはじめとする観光関連では低調な動きが続く。また、製造業では、取引先の過剰在庫や生産調整に伴う受注減に加え、緊急事態宣言下の営業自粛によるビジネスチャンスの喪失など、前月に増して悪影響が拡大しているとの指摘も多く聞かれており、中小企業の景況感は持ち直しの兆しはみられるものの、厳しい状況が続く。ただし、経営が厳しい中でも「従業員の人員整理を検討・実施」は約4%と4月調査に続き、低水準にとどまった。新型コロナウイルスによる経営への影響が長期化する中、雇用調整助成金等を活用しながら、雇用を守ろうとする中小企業の姿勢がうかがえる。

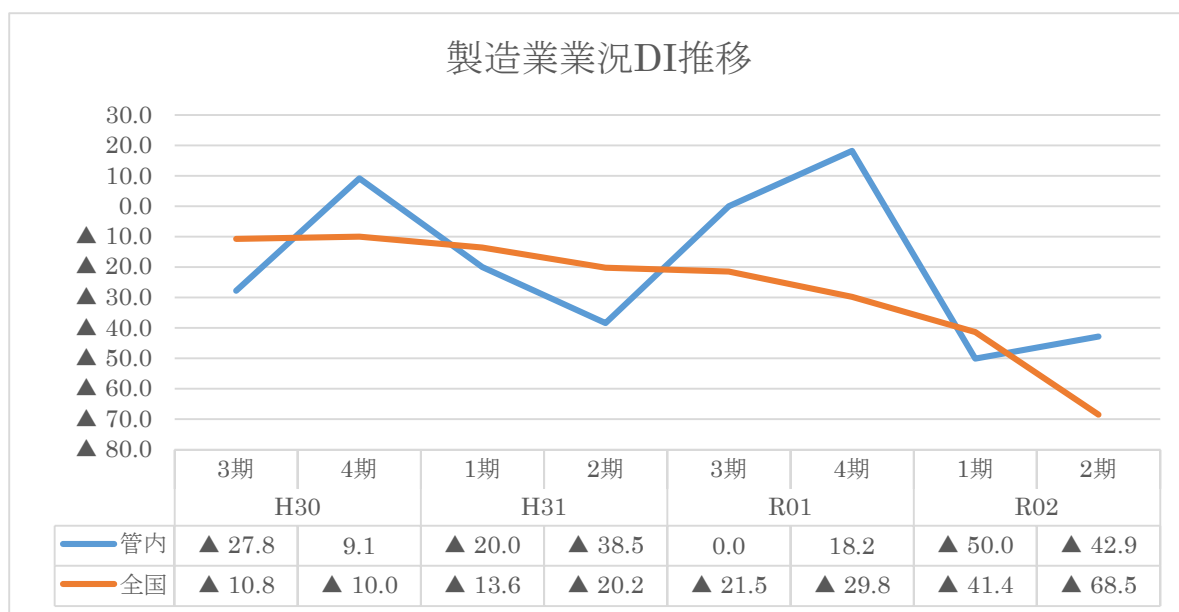
【廿日市市の景況】 ～新型コロナウイルスによる経済への影響が顕著化～

新型コロナウイルスの流行による緊急事態宣言により、外出自粛やイベント中止の影響を受けたり、休業に至った業種もあり、全産業売上は、前年比▲72.7と大幅にマイナスとなった。当面の問題点としては、売上、需要の停滞が約半数を占めている。

全業種総合業況は、前年比▲63.6で、全国の総合業況(▲63.8)とほぼ同等の結果となった。業種別では、飲食・サービス業、卸小売業が特にマイナス数値をたたき出しており、次に製造業となっている。調査時点では、向こう3か月(7～9月)の先行き見通しは、全産業合計の総合業況DIが▲31.8と前回調査(▲41.7)より上回っており、若干の持ち直しへの期待が感じられる。しかしながら、新型コロナウイルスによる経済への影響や見通しを立てるには難しい状況が予想される。

2. 業種別推移

【製造業】



第1表 業種別生産指数（付加価値額ウェイト）

年・期・月	鉱工業	製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	一般機械工業(総合)	はん用機械工業	生産用機械工業	業務用機械工業	電気機械工業(総合)	電気・情報通信機械工業	電子部品・デバイス工業	輸送機械工業	窯業・土石製品工業
4月	74.5	74.5	70.7	54.7	70.5	101.4	135.4	100.8	81.7	120.8	69.2	136.3	37.1	84.5
r 5月	71.6	71.5	67.8	51.6	68.6	103.6	175.2	73.1	81.5	119.1	68.0	132.4	36.2	82.8
p 6月	73.0	73.0	61.8	57.1	76.5	97.5	78.4	117.8	83.3	99.3	70.7	108.1	51.0	77.9
前月比(%)	2.0	2.1	▲ 8.8	10.7	11.5	▲ 5.9	▲ 55.3	61.1	2.2	▲ 16.6	4.0	▲ 18.4	40.9	▲ 5.9

注 rは修正値, pは暫定値

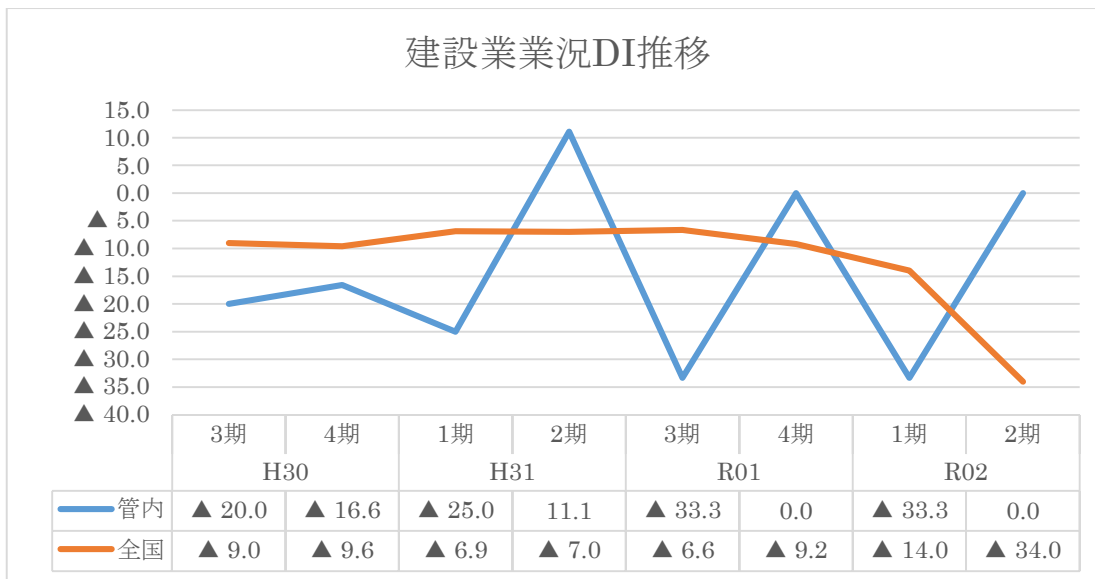
化学工業	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工品工業	繊維工業	食品・たばこ工業	木材・木製品工業	ゴム製品工業	その他工業	家具工業	その他製品工業	鉱業	公益事業	産業総合	機械工業	自動車部門	造船部門
107.8	102.1	103.8	90.0	71.9	36.6	66.6	79.4	92.4	78.1	40.1	95.4	74.9	71.5	20.5	75.0
81.3	91.4	88.7	94.4	62.6	17.9	45.3	69.2	64.6	70.8	42.6	82.8	71.7	72.4	22.6	75.0
91.6	93.7	83.3	93.4	61.4	18.0	58.0	75.9	73.2	76.4	40.6	87.4	72.9	74.6	44.9	68.2
12.7	2.5	▲ 6.1	▲ 1.1	▲ 1.9	0.6	28.0	9.7	13.3	7.9	▲ 4.7	5.6	1.7	3.0	98.7	▲ 9.1

《広島県鉱工業活動動向 業種別生産指数（季節調整済）》※広島県ホームページより

管内及び全国の業況DIは前期と同様大幅なマイナス値となっている。製造業においても新型コロナウイルス感染症の影響が大きいことが伺える。

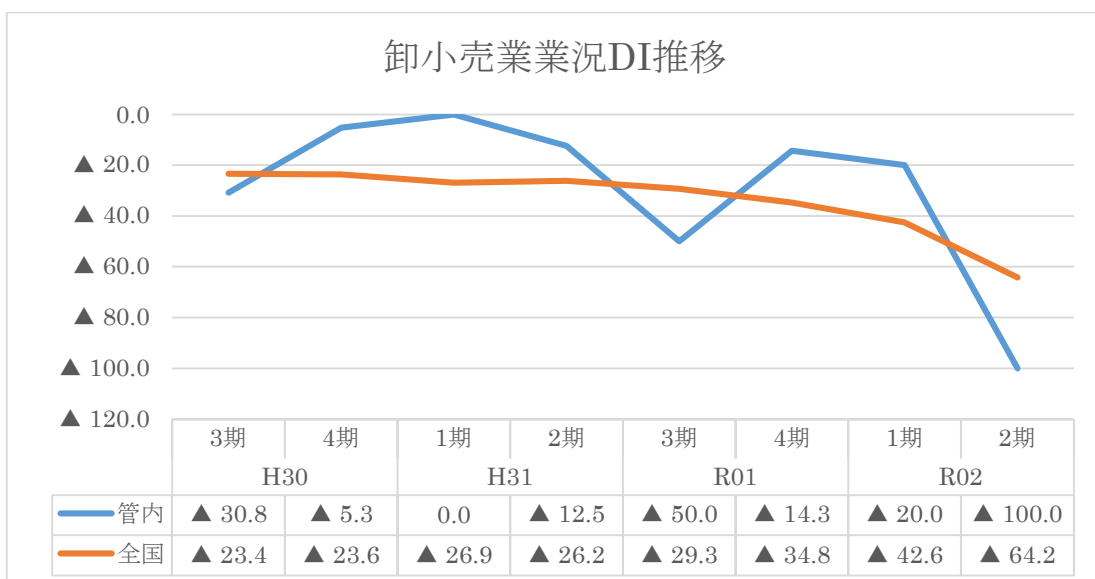
また先行指数である、業種別生産指数は一部の業種を除いて、概ね横ばいとなっているが、自動車部門においては、4月、5月と比べて6月は大幅に指数が上がっており生産体制が戻りつつあることを示している。

【建設業】



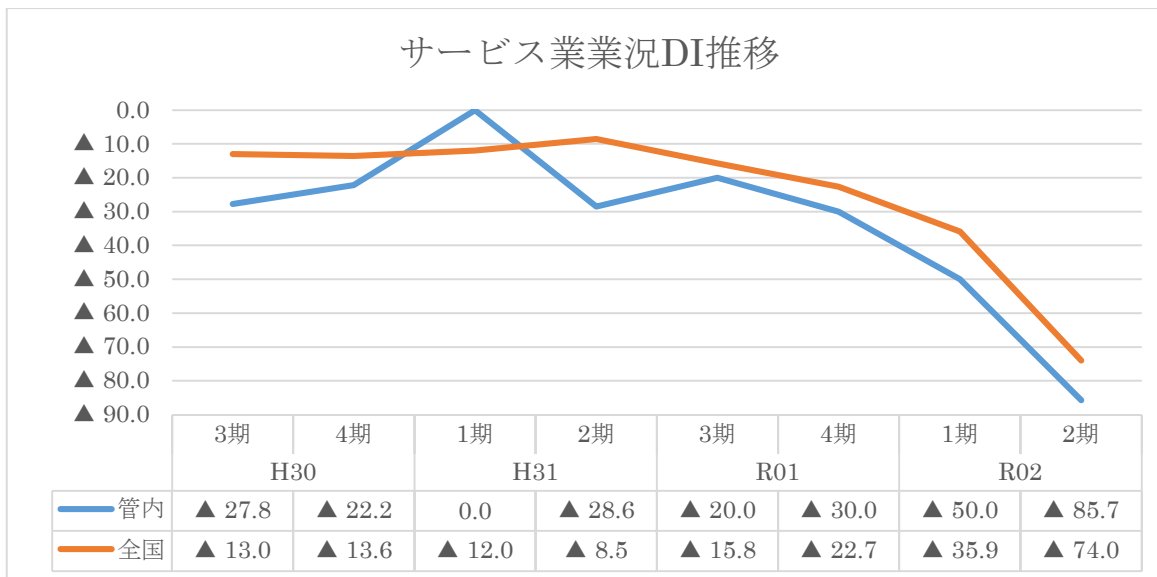
管内の建設業の業況DIは、▲33.3から0へと改善しているが、全国値では前期▲14.0、今期▲34.0と大幅にマイナスとなっており、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていると考えられる。

【卸・小売業】



管内の業況は前期の▲20.0から▲100.0、全国値は前期の▲42.6から▲64.2とともに非常に大幅な減少となっており、新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けている業種といえる。

【飲食・サービス業】



管内の業況であるが、前期▲50.0から▲85.7、全国値も▲35.9から▲74.0とさらに悪化しており、新型コロナウイルス感染症の影響による悪化が、サービス業でも顕著に出ている。

3. 今月のトピック

～コロナ感染症による影響～

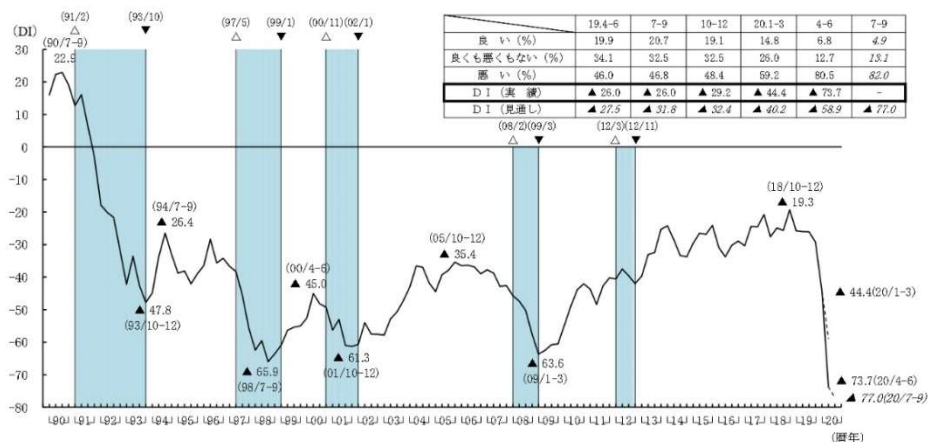
(1) 全国中小企業動向調査結果より

日本政策金融公庫の全国中小企業動向調査結果の小企業編による、業況と売上の推移

1 業況判断

- 今期の業況判断DI（全業種計）は、前期（2020年1～3月期）からマイナス幅が29.3ポイント拡大し、▲73.7となった。
- 来期も、マイナス幅が拡大し、▲77.0となる見通しである。

図－1 業況判断DIの推移（全業種計）

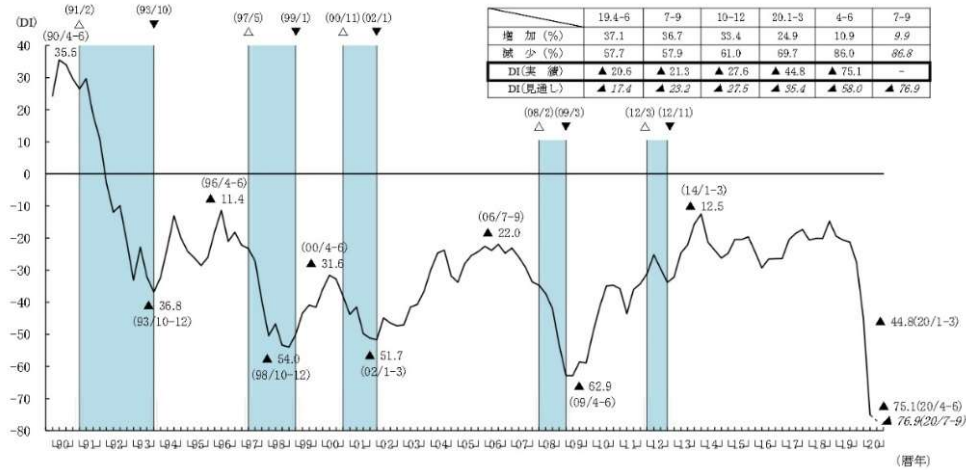


(注) 1 DIは、調査対象企業の業況が「良い」と回答した企業割合から「悪い」と回答した企業割合を差し引いた値。
2 ——— は実値、----- は見通し。斜体は見通しの値を示している。

2 売上

- 今期の売上DI(全業種計)は、前期からマイナス幅が30.3ポイント拡大し、▲75.1となった。
- 来期も、マイナス幅が拡大する見通しである。

図-4 売上DIの推移(全業種計)

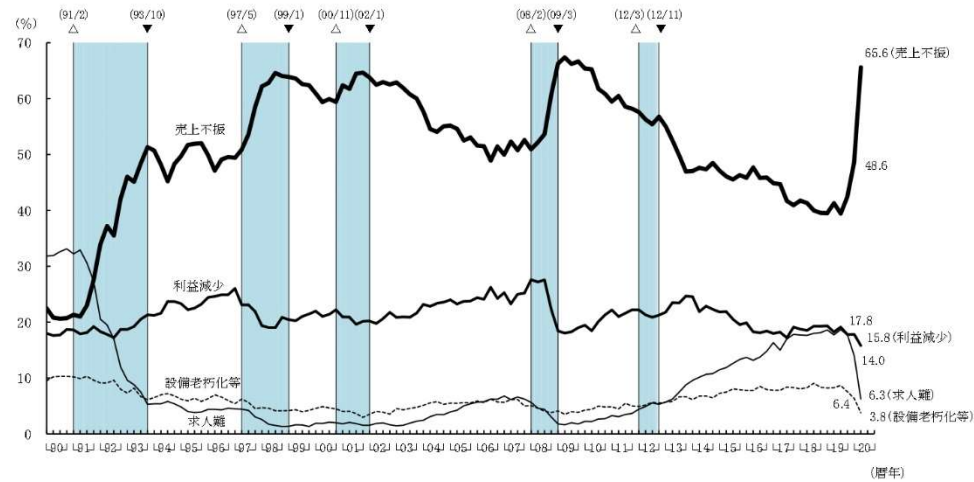


(注) 1 DIは、前年同期比で「増加」と回答した企業割合から「減少」と回答した企業割合を差し引いた値。
2 ——— は実績、----- は見通し、斜体は見通しの値を示している。

5 経営上の問題点

- 当面の経営上の問題点(全業種計)をみると、「売上不振」が65.6%と最も多く、次いで、「利益減少」(15.8%)、「求人難」(6.3%)の順となっている。

図-7 経営上の問題点の推移(全業種計、上位4項目)



(注) 経営上の問題点(上位4項目)とは、当面の経営上の問題点について択一式で回答を求め、上位4位までを示したものを。

業況・売上のDI値ともに非常事態宣言以降、大幅に減少し、1990年以降最大の下げ幅を示していることがわかる。非常事態宣言については小企業にとっては非常に厳しいものであり、売上不振が最大の経営上の問題点となっている。

宿泊者の分類の前年同月比の推移

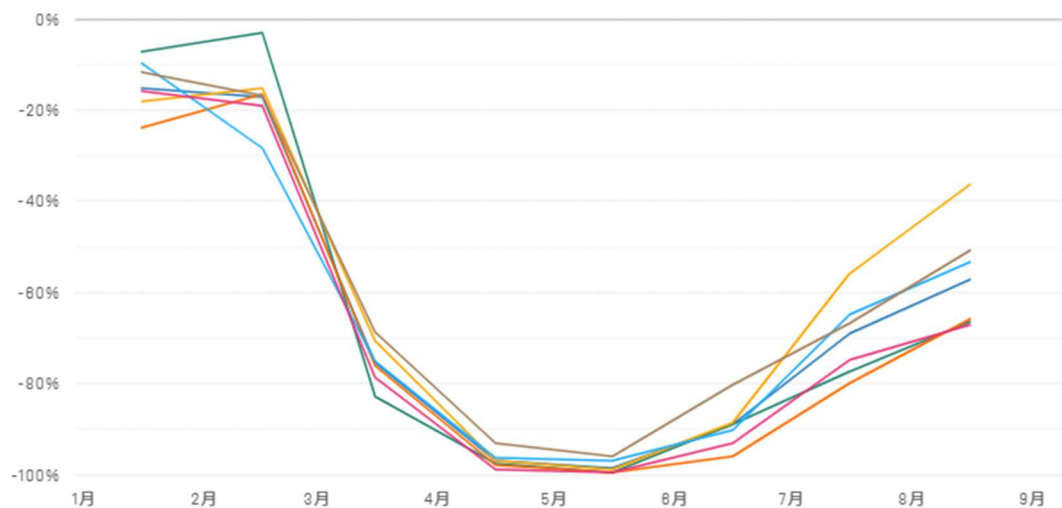
2020年1月1日～8月31日

エリア

広島県全体

宿泊者の分類:

■ すべての宿泊者の分類 ■ 子ども連れ(子ども = 13歳未満) ■ 男女二人(カップル・夫婦) ■ 女性グループ ■ 男性グループ



これらのデータから自粛期間中の5月は、人の移動、飲食店消費、宿泊において、最低となっており、完全に経済がストップしていることがわかる。そのため、企業の景気動向も非常に厳しいものとなっている。